

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

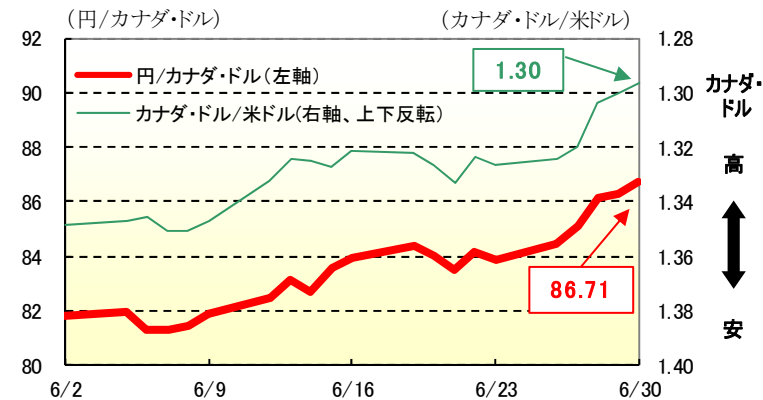
【2017年6月24日～2017年6月30日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円およびカナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、カナダ銀行のポロズ総裁が現行の金融緩和政策の変更を示唆する発言を行ったことなどを背景に、金利やカナダ・ドル円は上昇しました。また、ECB(欧州中央銀行)のドラギ総裁やBOE(イングランド銀行)のカーニー総裁などが将来的に金融緩和策の一部を解除する可能性を示唆したことなども金利やカナダ・ドル円の上昇材料となりました。

### 【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年6月2日～2017年6月30日)



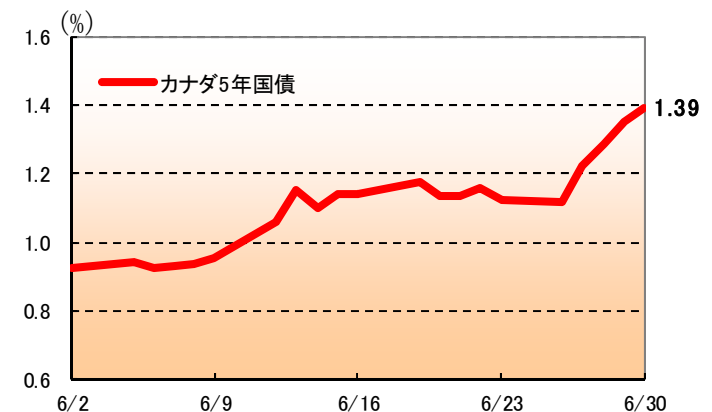
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週は、米国、カナダの経済指標が注目材料です。米国では雇用統計、カナダでは貿易収支や雇用統計に注目が集まるとみえています。これらが堅調な結果となれば金利やカナダ・ドルの上昇要因になるとみられます。

カナダについては、経済環境の好転などを背景に、利上げ期待が高まりつつあります。世界的にも金融政策は緩和から正常化へ向かう流れとなっており、カナダは金利上昇圧力が優勢になると考えられます。

### 【カナダ 金利推移】 (2017年6月2日～2017年6月30日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>